# スピン・オフ小説　あんたはすごい！

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
スピン・オフ小説　あんたはすごい！

【Ｎコード】
Ｎ３１２２Ｘ

【作者名】
水本爽涼

【あらすじ】
時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

# 第３８回

「面白くはありませんが、まあ興味をお持ち戴ければ、それで結構です…」

沼澤氏は終始、冷静である。

「え～と、それじゃ次は私ね？」

早希ちゃんは席を立つと、私達が座るカウンターの方へ近づいてきた。

「じゃあ、ママさんと同じように、玉の正面へ立って下さいますか？」

「ええ、いいわよ」

早希ちゃんはママが立つ酒棚側へ入ると、臆することなく水晶玉の前へ立った。沼澤氏は水晶玉をじっと覗(のぞ)き込むと、そこに映った早希ちゃんの姿を目を細めて凝視(ぎょうし)した。そして、ママにやった時と同じような仕草で長い祝詞(のりと)のような長文を約二分、読誦(どくじゅ)し始めた。その後も全てがママの時と同じ繰り返しで、冥想の後、静かに両の瞼を開けた。

「あなたはどうも、玉の事実を信じておられぬようです。当然、玉もそれが分かっておるのか、あなたの運を探ろうとはしていません。というより、むしろ探ることを拒絶しているのです。よって、あなたの未来運は予測不可能です」

「沼澤さん、それは、この玉の事実を信じる者のみが占えるってことですか？」

「ええ、まあそうです。半信半疑でもいいのですから…。信じて戴ける方は玉もよく承知しております」

早希ちゃんは小声で、「…やってらんないわっ」と、投げやりぎみに呟くと、元の席へと戻って座った。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3122x/

---

スビン・オフ小説　あんたはすごい！

2011年12月28日00時57分発行